

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2473100143		
法人名	社会福祉法人 エイジハウス		
事業所名	グループホーム ひぐらし		
所在地	南牟婁郡御浜町大字神木23		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	平成26年10月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2473100143-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 26 年 8 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特養に併設している利点を利用して、看取りに力を入れている。 又、温泉や遠足、カラオケ等、利用者様一人一人に応じた関わりを多く持っている。 入浴は、夕方から夜にかけて入浴して頂き、本人様の希望に応じて、毎日入浴して頂いている方もいる。 野菜作りや、味噌作り、梅干し作りにも力を入れており、全員で特養分とひぐらし分の味噌・梅干しを作っている。 冬になると、さんまの丸干し作りや、さんま寿司・こんぶの寿司を作り、正月の準備をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に何が良くて快適に日々過ごせるかを代表者・管理者・職員が全員で考え、実践している。辛抱強く利用者が受け入れるまで明るく笑顔で接しており、優しさと思いやりを持った介護をしている。また、利用者が心身健康で過ごせるよう利用者主体の支援をしており、一般家庭の生活に近い利用者のハリのある行動と話し声、笑顔が見られる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケース検討会や、毎日の申し送りの際にも理念に触れ、確認し合う様にしている。	22年経過した理念を今年から新しい具体的理念に変更した。「笑顔でどんなニーズにも対応します。いかなる場合でも利用者を尊重します。質の高いサービスを提供します。働きやすい職場環境を作ります。生まれ育った地域で最後までを支えます。スキルアップの為に専門性を高めます。」の理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントの際には、利用者様と共に積極的に出掛け、地域の方からもお誘いの声も掛けて頂いている。	公民館での盆踊りの練習、交通安全の講習などに積極的に参加・アプローチして日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌により、事業所の日々の関わりを知って頂く為に、地域に配布して頂いたり、お店に置かせてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター、地元の警察、老人クラブ代表民生委員の方などに参加して頂き、2か月に1回定期的に開催している。又、利用者様にも参加して頂き、利用者様の意見等もサービス向上に活かしている。	夏祭りに対する意見や広報誌に対する意見が多数出ており、出された意見はサービス向上に活かされている。会議には、今年の3月から利用者にも出席してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議に、役場の福祉課長、包括支援センターの職員に参加して頂き、協力関係を密にしている。	市町とは運営推進会議にも参加していただいているが、困っている年配者の相談があったり、施設に空きがないかの問い合わせもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や、居室の鍵も含め、目に見える身体拘束は一切行っていない。又、言葉による拘束にも十分注意し、申し送りや、ケース検討会の際にも話し合い、周知徹底している。マニュアルも職員が見える所にかけている。	年1回の法人全体の勉強会で事例検討などを行っている。点滴する利用者は拘束することなく、職員が必ず側についている。利用者の居場所の確認を常にしており、外に行こうとしている利用者も妨げずに寄り添って話しかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内でも、常に虐待が見過ごされる事がない様に十分に注意をしている。又、虐待行為を発見した場合の対応方法については、その都度、職員で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会により学ぶ機会を持っている。又、地域福祉権利擁護のパンフレットを事務所に設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約書に基づいて説明し、了解して頂いた時点で署名捺印して頂き、又、苦情等についても窓口、第三者委員の説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に、家族の方にも参加して頂き、意見を頂き、運営に反映させている。	面会に来られる家族とは別室で意見を聞いている。他に料金送付の時に一筆書いたり、電話で話すことも多い。利用者の方もほとんどが意見を言える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース検討会、各ユニットの問題や、利用者様の関わりについて話し合い、運営に反映させている。	法人内各事業所から親睦会や広報に参加しており、直接、代表者や管理者に意見を聞いてもらう機会も多い。職員から運営推進会議に参加して参加者に色々知ってもらう機会を設けたいなどの意見もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度により、職員一人一人と面接を行い、職員の目標が達成できる様援助し、H26年度より、業務手当を給付し、仕事への意欲を高めてもらう様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度によるチャレンジカードを作成し、一人一人の目標を作り、職員の資格取得に向けて、施設外の研修にも参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、発表大会にも参加し、サービスの質を向上させている。又、昨年より、老施協にも加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、なるべく早く、雰囲気になじんで頂ける様、他の利用者様に紹介し、職員が会話の間に入ったりしている。入所時に家族様からの在宅での情報を聞き、役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時より家族が抱えている不安にも耳を傾け、安心して頂ける様、報告等こまめに行ない、できる限り要望に添える様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供にあたり、本人の要望・家族の要望等を聞き、利用者様の不安や帰宅願望等がある場合、家族と相談、協力して頂き、解消している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩である事を職員全員が共有している。利用者様に教えてもらう場面も多く、シェアハウスの様に、職員、利用者様が共に支え合い、生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当職員が家族に手紙を書き、近況報告を行い、家族に信頼して頂ける事を大切にしている。又、家族の要望にもできる限り添える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が入居前から利用していた美容室や、お墓参り等、その人その人が住んでいた場所を大切にしていこうと努めている。	美容室はほとんどの利用者が以前からの掛かりつけである。お墓参りも利用者から依頼があり、4～5人ぐらゐの利用者が職員とお墓参りに行っている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないように今まで支援に努めているが、更に馴染みの場所との関係が途切れないよう利用者が行ったことのあると思われる伊勢神宮や勝浦等、利用者が嘗て行ったことがあるであろう場所へ行けるよう支援を期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介助の必要な利用者様に、他の利用者様が関わり、利用者様同士が悩みを相談し合ったり、支え合いながら生活できる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設している施設へ移られた方にも、利用者様と遊びに出掛けたり、遊びに来てもらったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に、次に家族の希望を含め、生活して頂いている。又、誕生日やいつものお手伝いのお礼も兼ねて、行きたい場所、思い出の場所等をお聞きし、外出支援を担当職員が行っている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を把握し、外出計画を作成し、高野山や奈良公園に行ったりして。又、趣味で碁を打つ方には高齢者住宅や特養にお連れして打ってもらっている。行きたい所に職員がトコトン付き合うので利用者に落ち着きも出ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の日常の会話、家族、知人等の訪問時に、スタッフが参加し、生活の様子を聞いたり、本人の今の生活等も報告している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムで生活して頂き、残存能力を大切に、その人に応じた社会的役割をして頂ける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討会により、本人、家族の意見を主に考え、その中でサービスを組み、作成し、担当職員も含めモニタリングを行い、定期的に見直している。	介護計画に家族の参加は無いが、最初のヒアリングから家族の意見を主に考え、定期的に見直している。職員が利用者へ思いを持ってもらうよう担当制をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を個別にファイルし、身体状況及び排便等を記録し、ケース検討会において介護計画の見直し、情報の共有に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援に職員が柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して地域での暮らしを続けられる様、地域運営推進会議にて利用者様の状況を報告したり、活動を報告したりし、地域の方と連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及び家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。受診は、職員が付き添い受診し、かかりつけ医と事業所との関係も築く様にしている。	事業所協力医を希望された三人の利用者以外はかかりつけ医で、定期健診は今までのかかりつけ医である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変調があれば、併設している特別養護老人ホームの看護師に相談し、支援してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、家族とも情報交換しながら、回復状況等、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と終末の送り方について話し、馴染みの方にも会いに行き、主治医と連携しながら自然な形で送れる様取り組んでいる。	将来的に特養の看護師や往診可能な医師と連携し、利用者と家族の看取り希望がかなえられるよう目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習に全職員が参加できるように努め、利用者様の急変や事故発生時に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している特養との合同避難訓練を年4回行い、地域の主催する防災訓練にも参加し、地域との協力関係も築いている。	地震と火災を想定した避難訓練を年4回行っている。食料と水は3日ぐらい備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の尊厳を大切に職員が関わり、言葉かけについては、法人全体で赤ちゃん言葉や命令言葉を使わないようにしている。	職員同士で話し合っさりげなくトイレ誘導したり、人格の尊重やプライバシーの確保に努めている。利用者の写真を施設内に貼っているが家族の了承をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の毎日の希望に合わせて入浴して頂いたり、本人の希望により、温泉に出掛けたりしている。又、外食した際にはメニューを見て食べたい物を注文して頂いたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝ゆっくり起きられる方にはゆっくり起きて頂く等、生活リズムを大切にしながら一人一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出する時は化粧をして頂いたり、本人自らが身だしなみを整えて頂ける様準備をしたり、職員もさりげなく支援する様にしている。又、馴染みの美容室等に出掛け、希望に合わせたカットをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から、配膳、盛り付け、後片付けを職員と一緒に頂いている。職員は、昔ながらの知恵等、利用者様から教わる事も多い。	利用者に食事の準備から後片付けも参加してもらっているが、食事その物への工夫を最大限している。流しソーメンやさんま寿司をしたり、みんなで梅干しを作ったりして美味しく楽しくしているが、流動食に近い食事しかできない利用者へソフト食や凍結含浸食を作ってトコト美味しく食べられる努力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の不足がちな方には、水分量が確保できる様職員同士話し合い、好まれる飲み物や、工夫をし、一日の摂取状況を把握できるようにしている。又、個別の栄養バランスにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人一人の口腔ケアのし方も考え、一人一人に応じた口腔ケアの手伝いをしている。又、就寝前は、義歯の洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	さりげなく声掛けする事で、自尊心を傷つけない様配慮している。一人一人の排泄パターンを探り、快適に過ごして頂ける様オムツ、紙パンツは使用せず布パンツで過ごして頂きトイレで排泄できる様に支援している。	布パンツを全員が使用しており、夜も布パンツを使用している。起こされると機嫌を損なう方にはパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人水分量の把握や、食材の工夫、乳製品を取り入れており、散歩等体を動かす機会を適度に設け、自然排便できる様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒む方には、言葉掛けや対応を工夫し一人一人に合わせた入浴支援を行っている。毎日入浴したい方や、就寝前に入浴したい方にも、本人が望む入浴をして頂き、菖蒲湯、ゆず湯、温泉等も利用している。	夕方の16:30から寝る前にかけて入浴している。シャワーだけ毎日浴びる人や、音楽を掛けたり、本人が望む入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にし、生活リズムを整える様に努めている。又、一人一人の体調や表情を見て、ゆったり安眠できる様必要に応じ灯りを調整したり、物音に気を配る配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一人一人ファイルし、職員が内容を把握できる様にしている。服薬時は本人に手渡し、又は介助し、きちんと服薬できているか確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえる様、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉や、いつものお礼を兼ねての温泉への外出に出掛けたりしている。地域行事へも積極的に参加し、楽しみを持ってもらえる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物、散歩、温泉や外食、庭の手入れ、野菜作り等の外出支援を行っている。又、利用者様の想い、希望がある時は、支援の方策を職員同士で検討し、実現に繋げている。	ほとんど毎日出かけている。外で花を手入れしたり、日帰りで自宅に行っている方もいる。出かけてない方に職員が声掛けして外出を促すことをしている。家族と協力してのど自慢の予選出場された利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、お金を管理している方もいる。外出時のお金等は、自分で支払って頂ける様にお金を事前に渡す等の工夫をしている。又、特養の売店で買い物も、自分で支払って頂ける様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙や電話を心待ちにしている気持ちを察し、電話をして頂ける様家族にお願い等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけや家具は季節に応じた飾りつけ・配置に心掛けている。又、味噌や梅干し漬けを置いて生活感を出せる様になっている。	綺麗にされた共用空間は毎朝、利用者と職員と一緒に新聞を濡らしてちぎって床に撒き、掃いている。壁には職員と利用者が一緒になって作製した花火大会の素晴らしく綺麗な貼り絵があったり、利用者の写真が貼られてあったり、玄関には職員全員の写真があったり居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様それぞれの居室で、気の合う仲間とくつろいだり、独りになりたい時は居室でテレビを観たり、縫物をしたり、休息も取れる様それぞれが思う様に過ごして頂ける様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子、その他使い慣れた日用品を居室に置き、畳の生活に慣れている方には、畳部屋を用意し、安心して過ごして頂ける工夫をしている。	押入れは広く奥行きがあり、沢山収納可能である。畳部屋希望の利用者が半数くらいおり、希望通り畳の部屋の方もいる。また、位牌や仏壇や携帯電話、テレビなど使い慣れたものも置かれている。各部屋の扉の前には暖簾を下げており、扉を開いても室内のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に応じて、出来る事を職員が理解し、毎日の生活の中で援助している。利用者様の状態に適した居住環境を整え、安全を確保し、自立への配慮をしている。		